

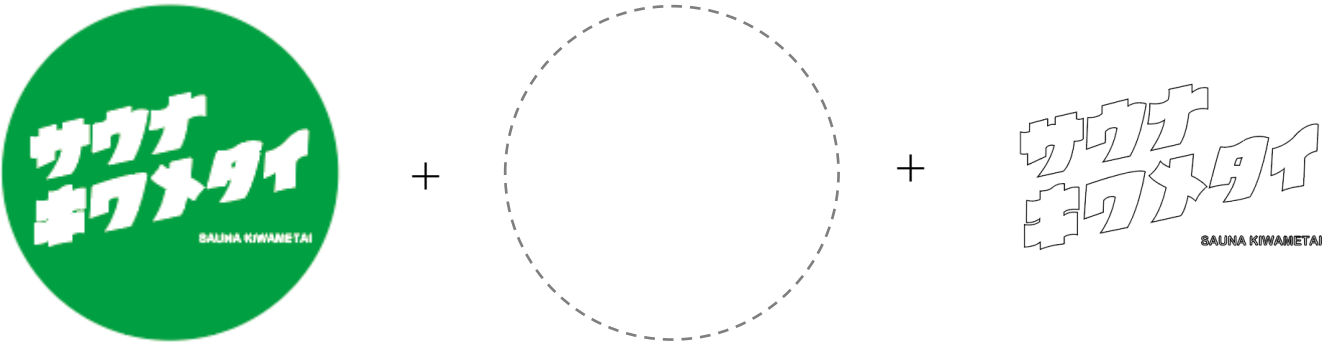
①印刷データの準備

例えば、こんな柄をアクリル板に印刷したいとすると…



(ロゴマークの部分はエンボスにしたい)

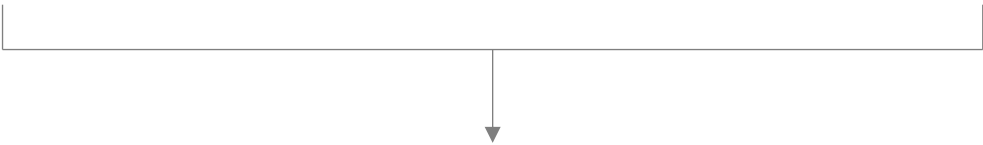
下記のデータを準備する必要があります (データ形式：PDF/カラーモード：CMYK)



①印刷データ (CMYK指定)
※白 (C:0M:0Y:0K:0) は印刷されません。半透明なインクなので下地の影響を受けます

②白地データ (※特色指定)
印刷データと同じサイズで別途作成ください
★特色 (Spot White) に指定

③透明データ (※特色指定)
エンボスにしたい箇所と同じサイズで別途作成してください
★特色 (Spot Varnish) に指定



レイヤー分けして1つのデータにまとめてください

【ワンポイントアドバイス】

特色指定 (次ページ) を誤るとシステムが色を認識しないのでご注意ください。

細かい柄になると、白地が版ズレではみ出るので、わずかに内側へオフセットしたサイズ (-0.1 mm程) にしてあげると綺麗に仕上がります。→★設定方法はP6を参照

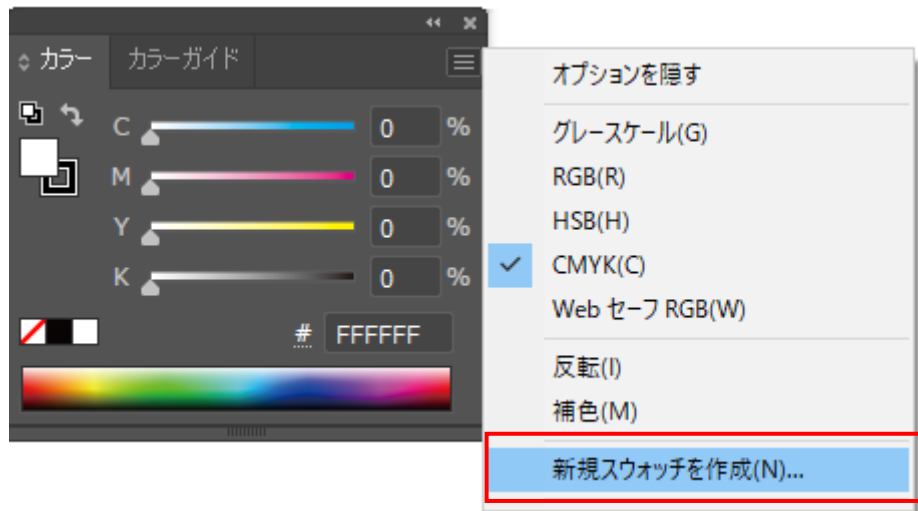


※特色の指定方法 (illustrator)

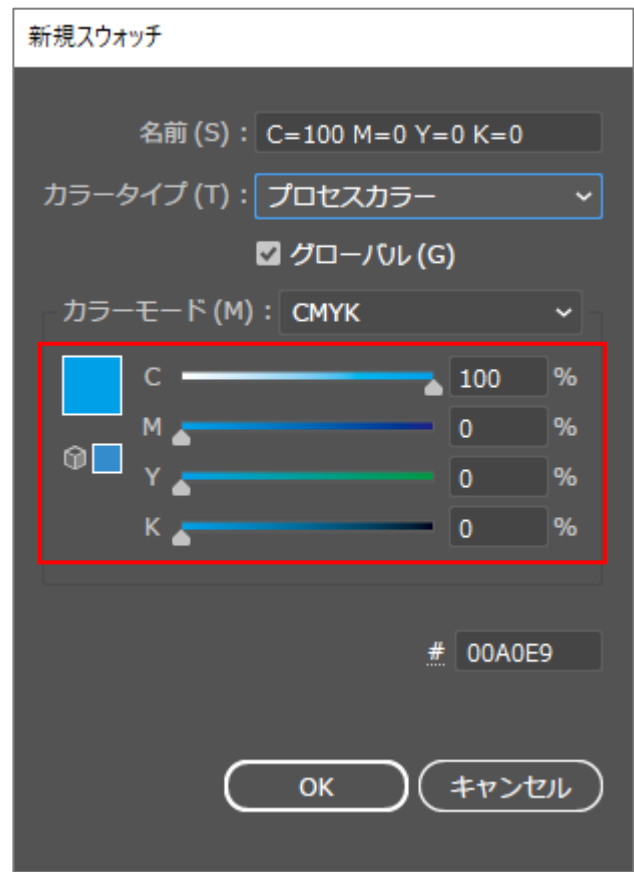
①カラーパネルの右上をクリック



②「新規スウォッチを作成」をクリック



③特色と認識するために任意の色に設定
※判別しやすければ何色でもいいです。
印刷時に指定した色は反映されません。

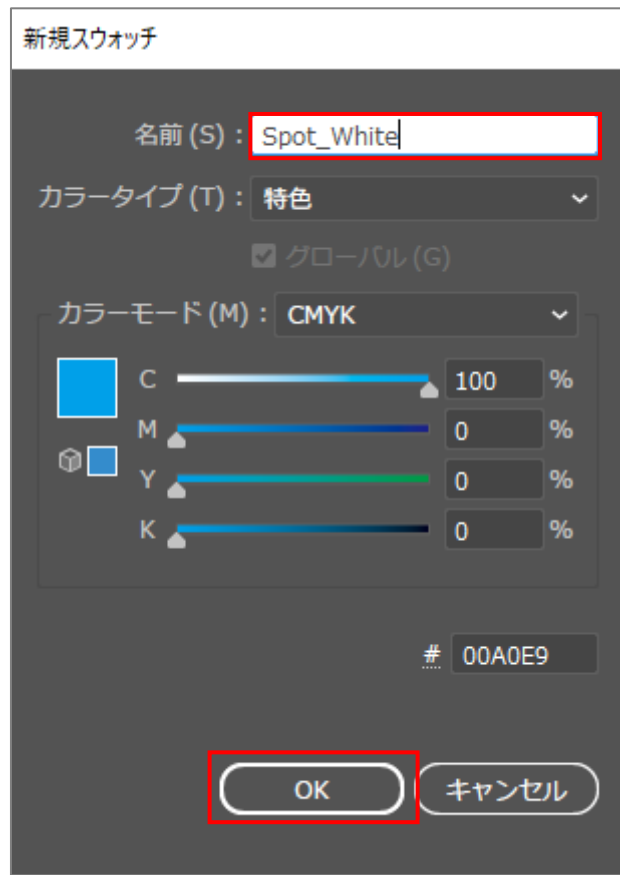


※特色の指定方法 (illustrator)

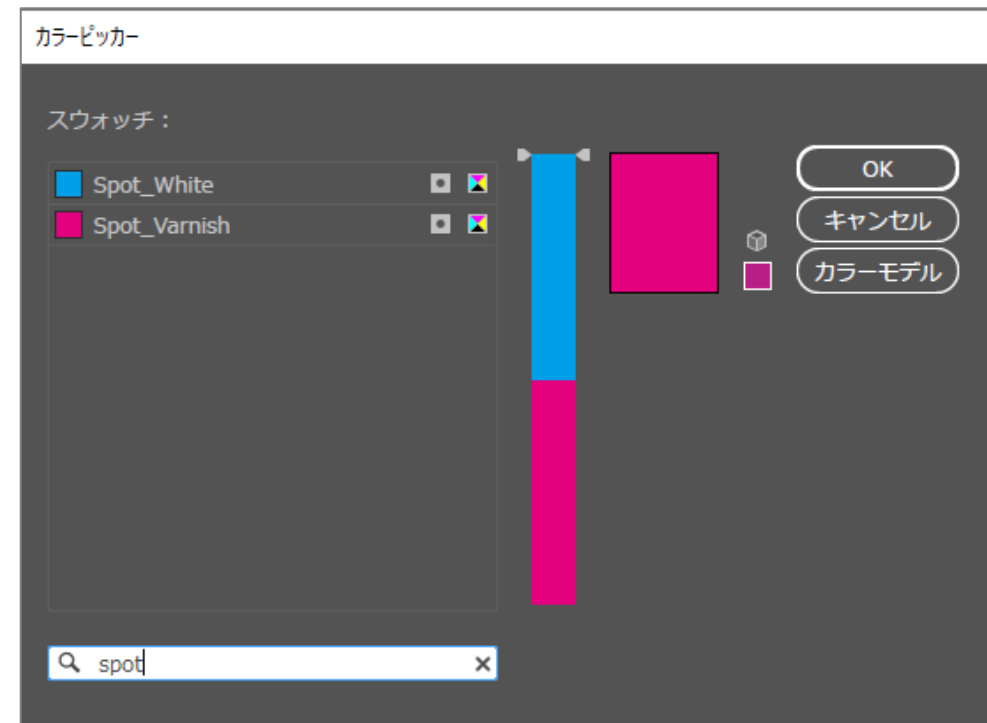
④カラータイプを「特色」に設定



⑤名前を打ち込む（スペルミスに注意！）
最後にOK押して設定完了です



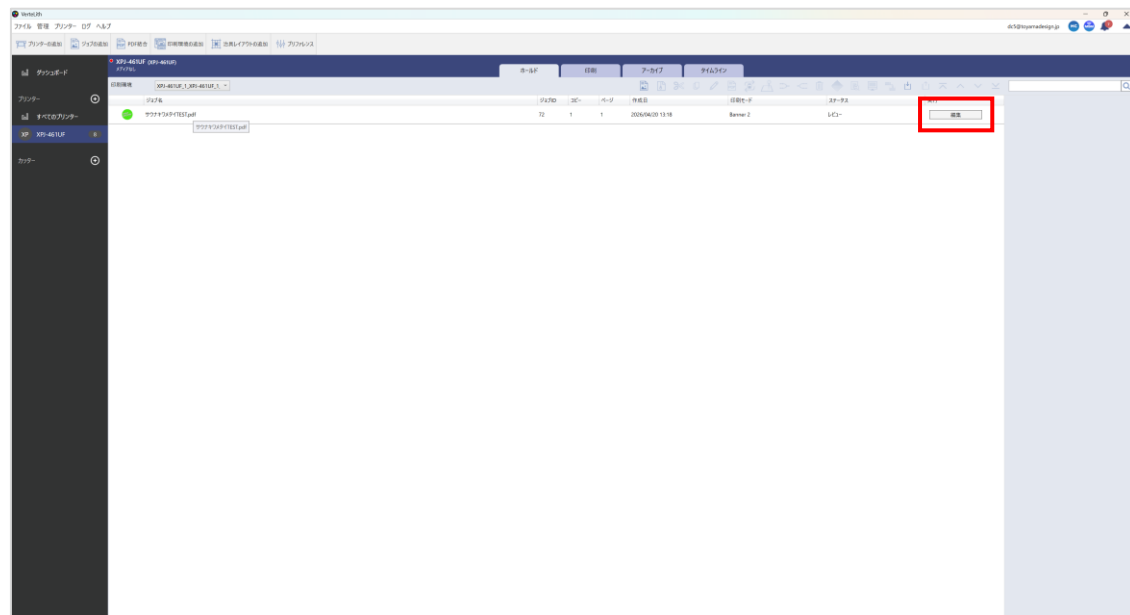
⑥スウォッチに特色が登録されます！
（白と透明は別の色で設定してください）



※透明は

②「VerteLith」設定方法（※基本）

①印刷データをドラッグ&ドロップで読み込み、「編集」をクリック



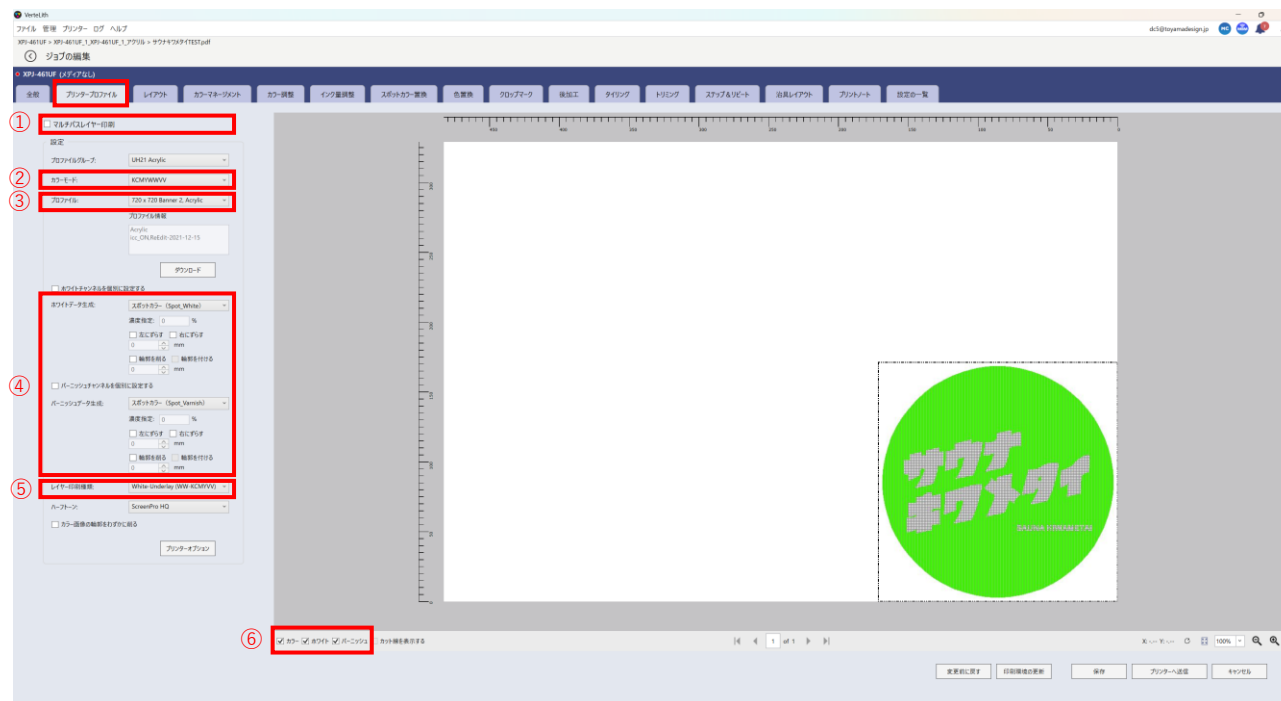
基本設定が必要なのは2点となります。

- ①「プリンタープロファイル」・・・インクや画質の設定
- ②「レイアウト」・・・印刷位置や回転、反転の設定

右側に「プレビュー」が常時表示されますので、設定を変更したら都度反映されているかチェックするようにしてください。

②「VerteLith」設定方法（※基本）

②「プリンタープロファイル」でインクや画質の設定を行います。



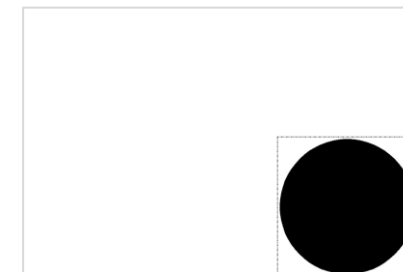
- ①マルチパスレイヤー印刷：印刷レイヤーを複数設定できます（※主に透明インクを塗り重ねる際に設定）
- ②カラーモード：使用するインクの数を設定できます（※プリセットでは全色（KCMYWWVV）設定）
- ③プロファイル：画質を設定できます
- ④ホワイトデータ・バーニッシュデータ生成：白と透明インクの有無や濃度、サイズを設定できます
- ⑤レイヤー印刷種類：印刷の順番を設定できます（※主に白インクを使用する際に設定）

⑥印刷データと特色2種データをそれぞれ確認することができます。
（※データ作成時に正しく特色指定できていないと、プレビュー時に表示がされません→印刷データ作成からやり直し）

☒ カラー ☐ ホワイト ☐ バーニッシュ



☐ カラー ☒ ホワイト ☐ バーニッシュ



☐ カラー ☐ ホワイト ☒ バーニッシュ



②「VerteLith」設定方法（※基本）

設定

プロファイルグループ: UH21 Acrylic

カラーモード: KCMYWWVV

プロファイル: 720 x 720 Banner 2, Acrylic

720 x 1440 Graphics 1, Acrylic

720 x 720 Banner 2, Acrylic

Acrylic

icc_ON, ReEdit-2021-12-15

【プロファイル（画質）設定の目安】

パスデータ：720×720

画像データ（写真など）：720×1440

レイヤー印刷種類: White-Underlay (WW-KCMYVV)

Off

White-Underlay (WW-KCMYVV)

White-Overlay (KCMYVV-WW)

Three-layer (KCMY-WW-KCMY)

Varnish-Underlay (VV-KCMYWW)

Varnish-Overlay (KCMYWW-VV)

WhiteVarnish-Underlay (WWV1-KCMYV2)

WhiteVarnish-Overlay (KCMYV2-WWV1)

Three-layer (WWV1-KCMY-V2)

Three-layer (WW-KCMY-VV)

Three-layer (VV-WW-KCMY)

カラー画像の輪郭をわずかに削る

【白インクの印刷設定】

表から印刷する（※白を印刷してから、カラー印刷する）場合：White-Underlay

アクリル板など透明な物の裏から印刷する（※カラーを印刷してから、白を印刷する）場合：White-Overlay

☐ ホワイトチャンネルを個別に設定する

ホワイトデータ生成: スポットカラー（Spot_White）

濃度指定: 0 %

☐ 左にずらす ☐ 右にずらす

0 mm

☒ 輪郭を削る ☐ 輪郭を付ける

0.1 mm

☐ パーニッシュチャンネルを個別に設定する

パーニッシュデータ生成: スポットカラー（Spot_Varnish）

濃度指定: 0 %

☐ 左にずらす ☐ 右にずらす

0 mm

☒ 輪郭を削る ☐ 輪郭を付ける

0.05 mm

レイヤー印刷種類: White-Underlay (WW-KCMYVV)

【ワンポイントアドバイス】

細かい柄になると、白地が版ズレではみ出るので、わずかに内側へオフセットしたサイズにしてあげると綺麗に仕上がります。

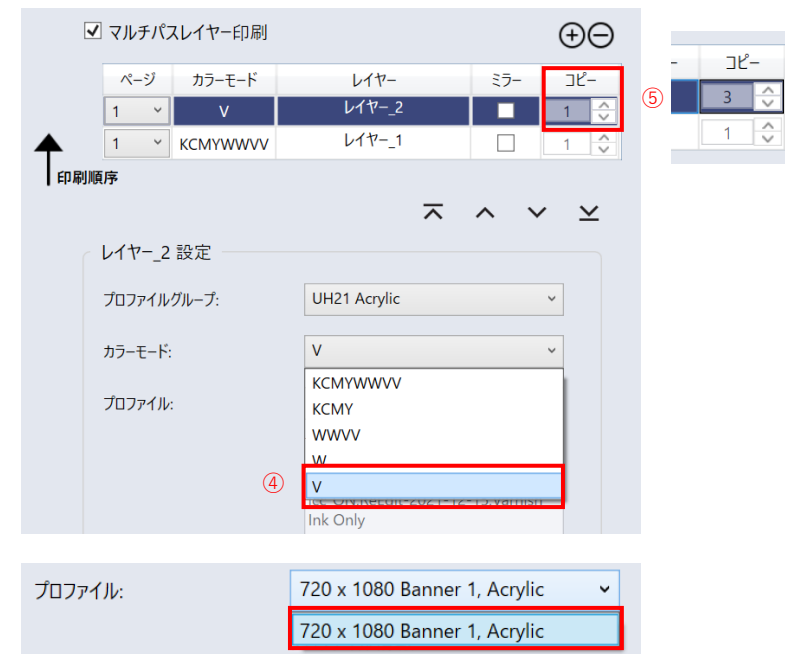


「輪郭を削る」にチェックを入れると、任意の数値で自動的に白・透明データを内側へオフセットして印刷することができます。

【内側オフセット目安】

白：0.1mm程度／透明：0.05mm程度

② 「VerteLith」 設定方法（※基本）



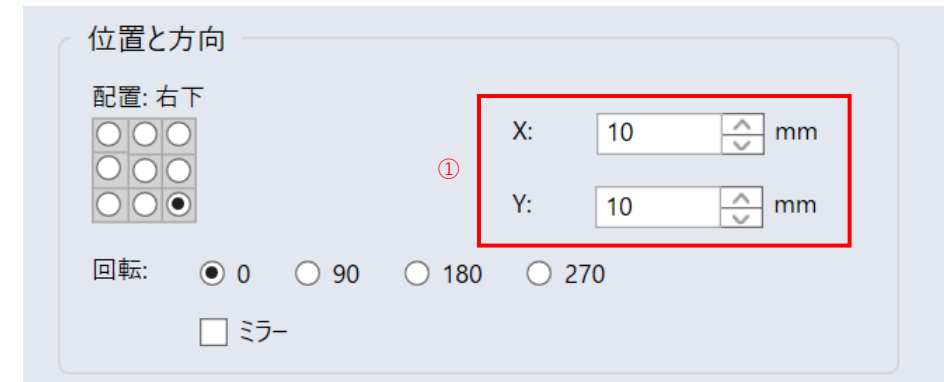
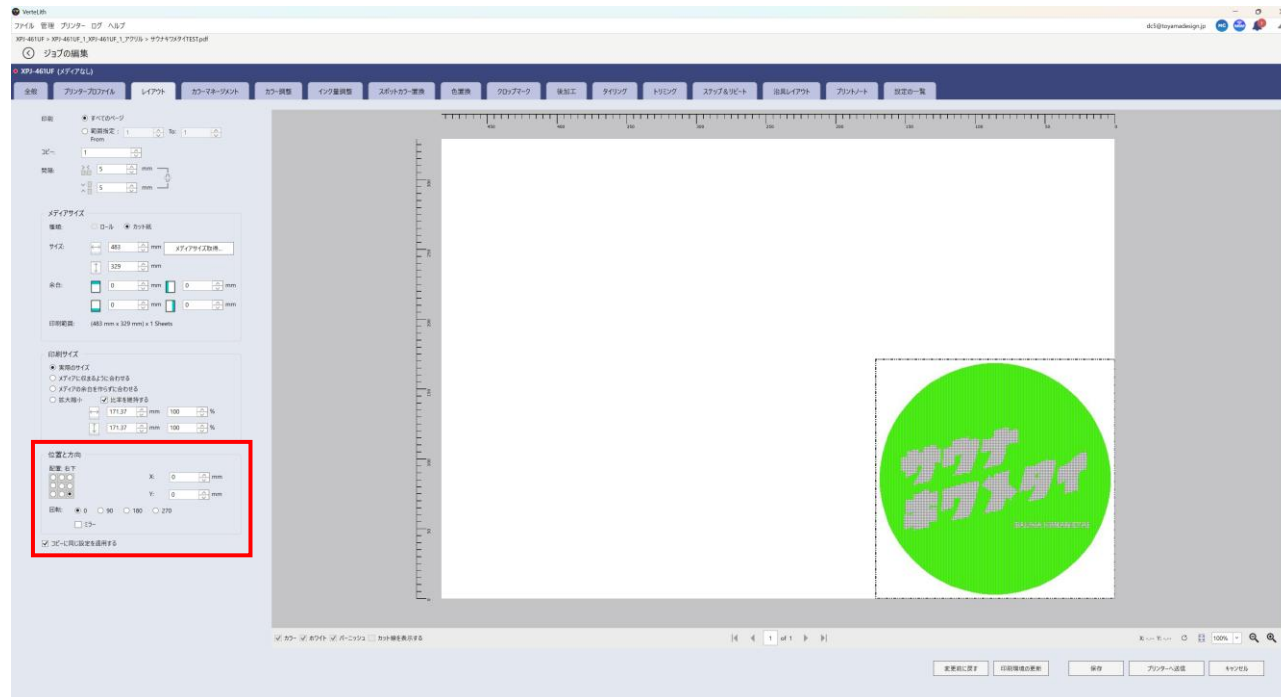
【透明インクの塗り重ね設定】

- ① 「マルチパスレイヤー印刷」にチェックを入れる
- ② 「+」で新規レイヤーを追加
- ③ 既存レイヤー（KCMYWWVV）の「バーニッシュ生成」を「オフ」にする
- ④ 新規レイヤーのカラーモードを「V」に設定
- ⑤ 「コピー」の矢印で塗り重ねる回数を設定

※ 「V」モードのプロファイルは1種類（720×1080）のみ

② 「VerteLith」 設定方法（※基本）

③ 「レイアウト」で印刷位置や回転、反転の設定を行います。



「位置と方向」で

①印刷が始まる始点（X座標/Y座標）設定

②印刷データの回転設定

③印刷データの反転設定（「ミラー」にチェック）

を行います。

※アクリル板など透明な物の裏から印刷する場合は、印刷データを反転させておく必要があります。

※「マルチパスレイヤー印刷」に設定している場合は「コピーに同じ設定を適用する」にチェックを入れてください。

印刷が始まる始点を（X：10mm/Y：10mm）に移動

②「VerteLith」設定方法（※基本）

位置と方向

配置: 右下

X: 0 mm

Y: 0 mm

② 回転: ☐ 0 ☒ 90 ☐ 180 ☐ 270

☐ ミラー

位置と方向

配置: 右下

X: 0 mm

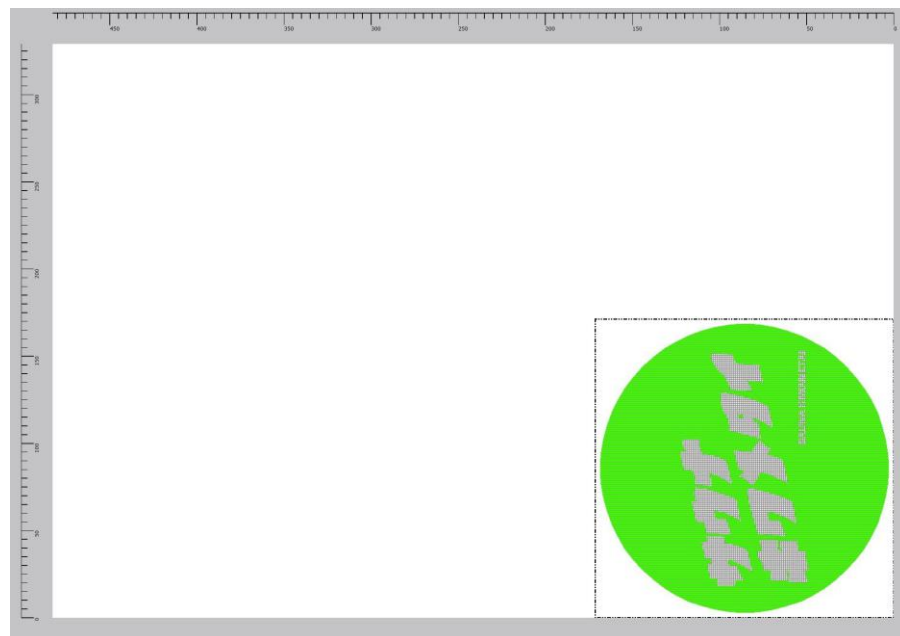
Y: 0 mm

回転: ☒ 0 ☐ 90 ☐ 180 ☐ 270

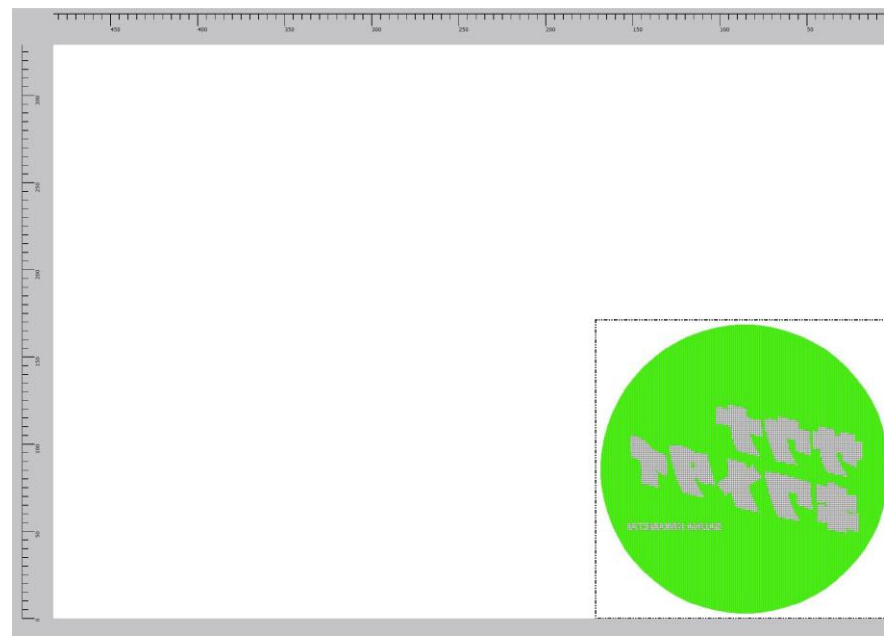
③ ☒ ミラー

④プリンターへ送信し、設定完了！

保存 プリンターへ送信 キャンセル



印刷データを90° 回転



印刷データを反転（※裏から印刷する場合、設定必須）

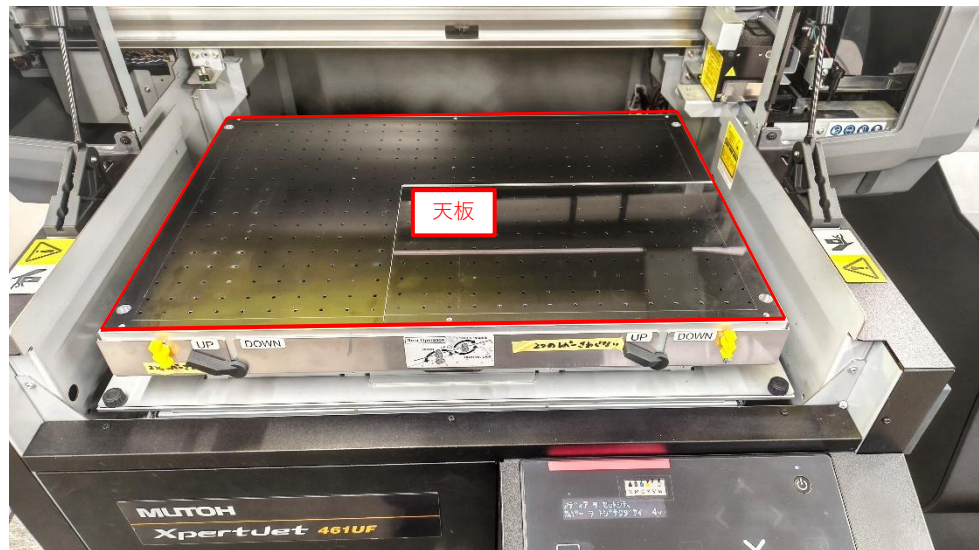
【ワンポイントアドバイス】

裏から印刷する場合のデータ反転を失念するケースが非常に多いです。なるべく印刷データを作成する際にあらかじめ反転させておいた方が思わぬミスを防げます。

（※レーザー加工機と連動させる場合カット用データの反転も忘れないよう気をつけてください→★P12-13参照）

③プリンター設定方法（※基本）

①保護カバーを上げ、天板に印刷対象物（メディア）を設置します



②本体カバーを開け、内部のレバーで天板の高さを上下調節します

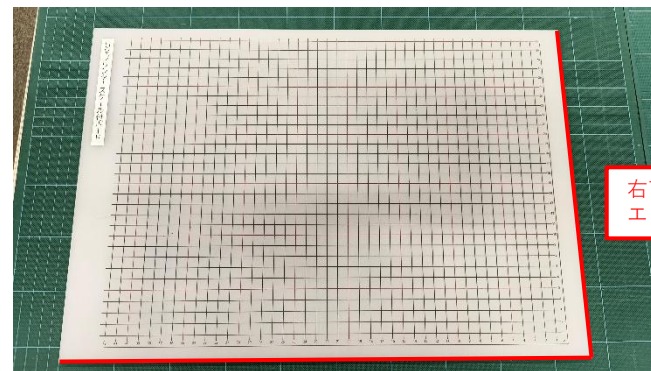


③ガイドと対象物の隙間が紙1枚スムーズに動かせる高さになればOK



【ワンポイントアドバイス】

特定の位置に印刷する際に、目安となるスケール付ボードを準備しています。印刷がはじまる始点（X座標:0 Y座標:0）のほか、1cm単位でスケールを入れていますので、任意の座標から印刷する際は下敷きにご使用ください。



③プリンター設定方法（※基本）

④操作パネルの上向き矢印（キー）を押して、障害物センサーで確認



※高さ調節が不十分（プリントヘッドに干渉する）なら警告音がなります（②からやり直し）

【ワンポイントアドバイス】

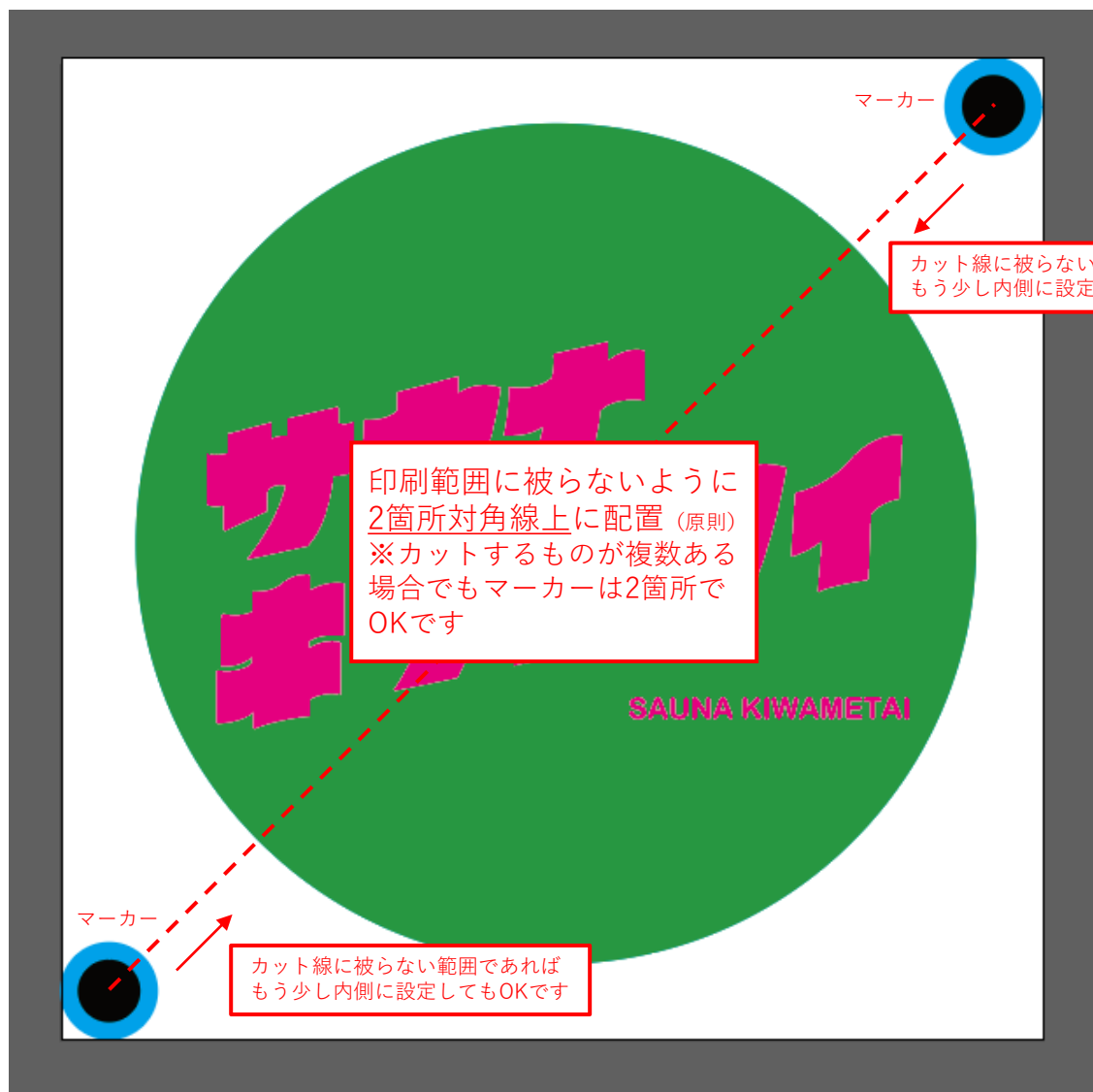
高さ調節ガイドと対象物の隙間が余分に空きすぎていると、警告音は
なりませんが、プリントヘッドの故障原因になる可能性があるので、
必ず紙1枚分のクリアランスに設定するようにしてください。

⑤「インサツデキマス」と表示されれば準備OK！



※VerteLithからデータを送信している場合、自動的に印刷がスタートします

※中止する場合は、下向き矢印を押すと止まります



①位置合わせ用マーカー（2箇所）をアートボード内につくります。

【表側から印刷する場合】

黒丸（6.35mm） 特色白丸（10mm）
※水色ではありません



【裏側から印刷する場合※アクリル板など】

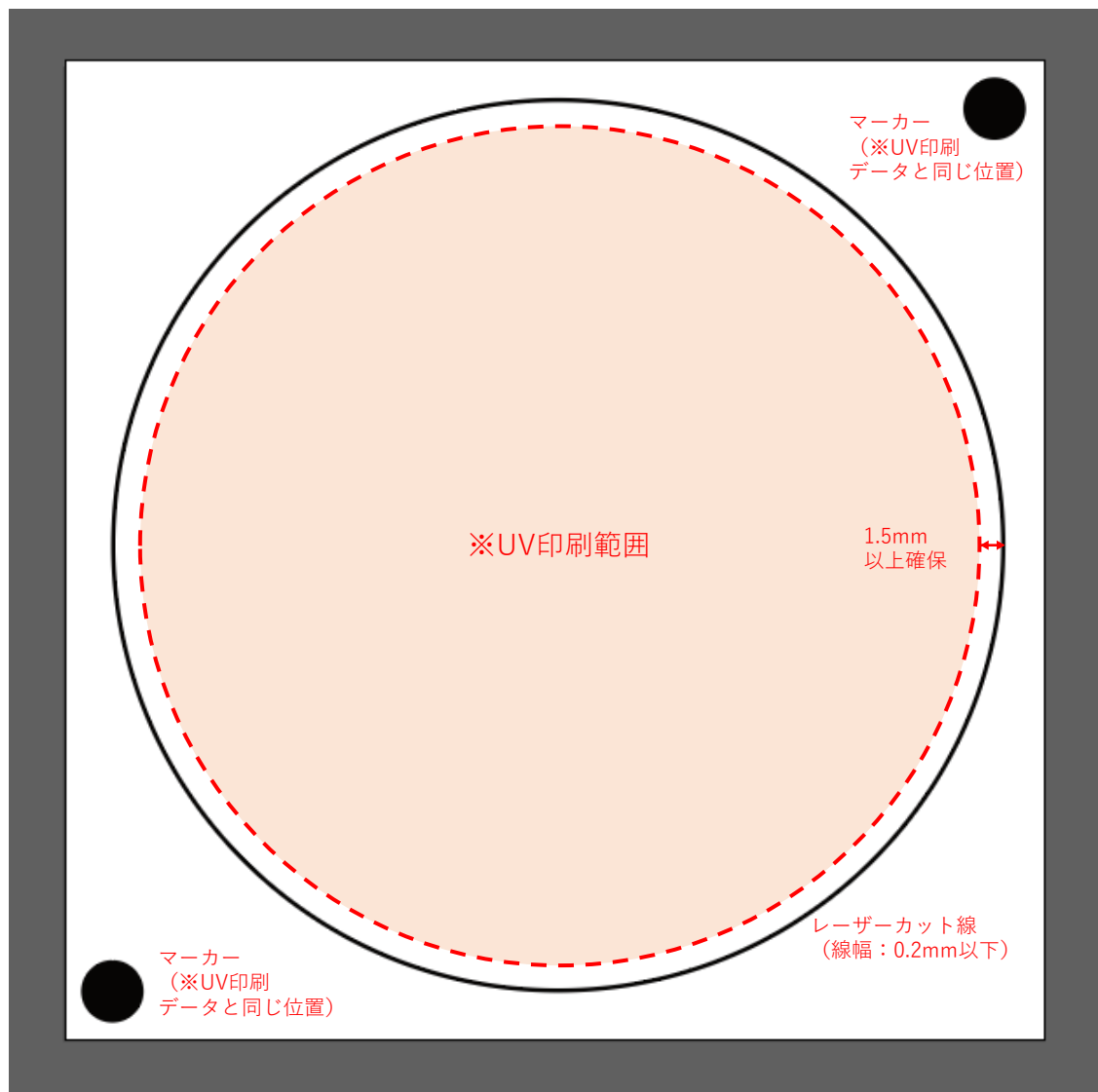
黒丸（6.35mm） 特色白ドーナツ（10mm）
※水色ではありません



【ワンポイントアドバイス】

マーカーの径設定は上記の設定をお願いします（サイズを守らないとレーザー加工機で加工する際に読み取れない可能性があります）

アートボードのサイズをオブジェクトに合わせて調整（裁ち落とし設定も0mm）しておくと、後々印刷位置を調整しやすくなります。→★P14-15参照



②レーザー加工用データをつくります。（データ形式：AI/カラーモード：RGB）

カット線幅は0.2mm以下に設定してください。

印刷範囲とカット線との余白は1.5mm以上確保してください。

マーカはUVプリンター用データと同じ位置に設定してください。

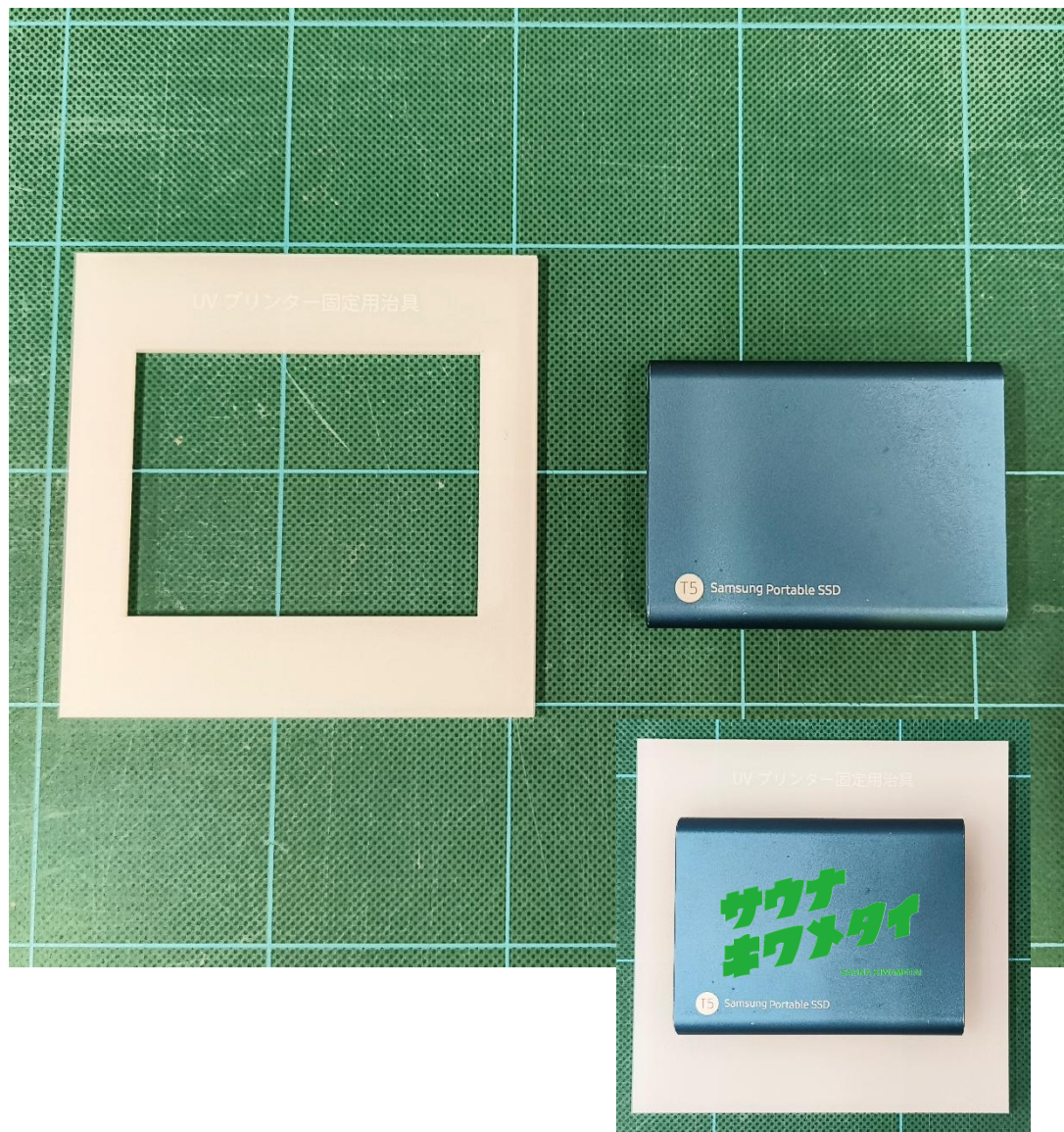
印刷データと特色データは不要です。（カット線とマーカのみ）

【ワンポイントアドバイス】

UVプリンターの「ミラー」でデータを反転させている場合、レーザー加工用データ側も向きが揃っているか忘れず確認してください（※失念するパターンが大変多いです）

レーザー加工機では、
「画像データ（塗りアリ/線ナシ）」→彫刻加工
「線データ（塗りナシ/線アリ※線幅0.2mm以下）」→カット加工
として、それぞれのオブジェクトが認識されます。

マーカを用いて彫刻加工とカット加工を同時に行う場合は、彫刻用データをマーカとは違う色（任意）に別途設定する必要があります。

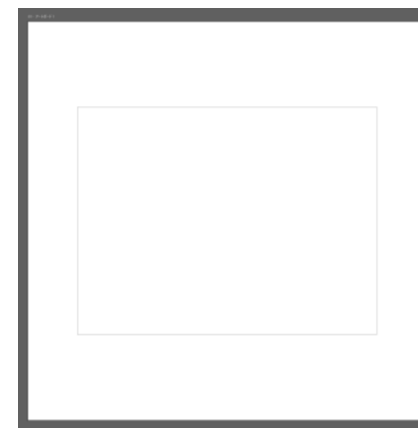


※仕上がりのイメージ

①対象物を固定するための「治具」を用意します。

固定できる強度があれば素材は問いません。（写真はアクリル板で作成）

レーザー加工機で治具を作成する場合、UVプリント用データと同じアートボードサイズで作成します。（写真は100×100mmで作成）



治具作成用データ



UVプリント用データ

【ワンポイントアドバイス】

アートボードの裁ち落とし設定は0mmにしておきます。PDF化した際に天地左右へ余白ができてしまい、印刷位置にズレが生じてしまいます。



①固定用治具とスケール付ボードを用いて位置を合わせ印刷します。

スケール付ボードを設置します。(右下寄せで天板のエッジに合わせる)

印刷が始まる始点 (X座標:0 Y座標:0) に治具の右下を合わせます。

印刷する対象物も含め、高さを調整します。



※実際の仕上がり